



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「奥日光の6月」

日光森林管理署 (奥日光国有林)

(撮影者：日光森林事務所 非常勤職員 大野恵一郎)

- 民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の設定について
森林整備部 技術普及課・・・2
- 高尾の森から
高尾森林ふれあい推進センター・・・3
- きのこと特集
総務企画部 総務課・・・4
- 森づくり最前線
埼玉森林管理事務所 大滝森林事務所 森林官 柴崎一道・・・6



【森林共同施業団地のイメージ図】

国有林では、地域の森林整備の低コスト化・効率化等を推進するため、国有林周辺の民有林所有者や集約化を進める林業関係者等と森林整備の推進に関する協定を締結し、協定区域内に設定した森林共同施業団地で、連携して森林整備を進めています。

関東森林管理局では、平成28年度末現在、20件の森林整備推進協定を締結しています。



【協定調印式】

群馬森林管理署では、昨年度の「みどり市地域森林整備推進協定」に続き2件目の協定を新たに締結し、

平成29年6月1日に、磯村産業株式会社、群馬県西部森林環境事務所、群馬森林管理署の3者で「烏川流域(源流部)森林整備推進協定」を締結しました。

烏川流域(源流部)森林整備推進協定の概要

森林共同施業団地を設定しましたので、その取組をご紹介します。

民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の設定について
群馬県高崎市「烏川流域(源流部)森林整備推進協定」の締結
森林整備部 技術普及課



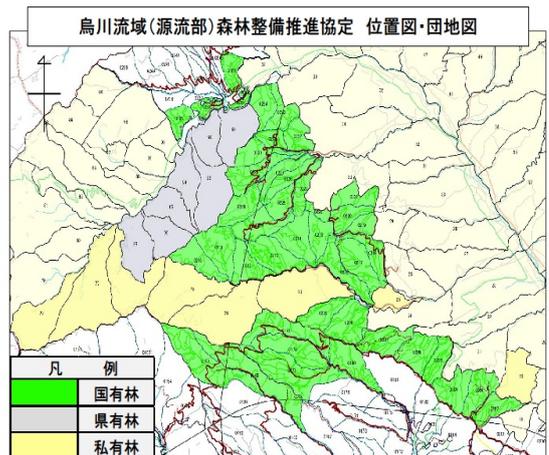
【協定地内の高齢級間伐(民有林)】

この協定は、高崎市倉淵町烏川流域源流部に位置する私有林、県有林及びその周辺に位置する国有林について、森林の持つ多面的機能の高度発揮と資源の循環利用のため、連携・協力して団地化を推進し、合理的な路網の整備、効率的な森林施業の推進及び地域材の安定供給に取り組むこと等を目的としています。

団地面積は、3,688畝(私有林1,036畝、県有林526畝、国有林407畝)です。

本協定期間中に、林業専用道805㌔・森林作業道14,570㌔の路網整備と約1万2千立米の木材生産、保育作業約84畝を実行する予定

定です。



関東森林管理局では、今後とも森林共同施業団地における取組を始め、民有林と国有林の連携を積極的に推進し、森林の整備・林業の低コスト化等を実践することにより、地域林業の活性化に貢献してまいります。

この取組により、民有林と国有林を連結した林業専用道・森林作業道の整備と、相互利用による事業の効率化や低コスト化、民有林材と国有林材の協調出荷による地域材の販売促進、木材の安定供給等に貢献するなど、地域の森林整備や施業の集約化等がより一層促進されることが期待されます。



高尾森林ふれあい推進センターでは、森林とふれあいたいという方や教育機関等の要請に応えるため、様々な活動を行っています。
今回は、平成29年度春期の活動等を紹介します。

【フォレストサポートスタッフ (FSS) 委嘱式】

高尾森林ふれあい推進センターが実施する森林教室や体験林業等のイベント実施にあたり、サポートして頂く「フォレストサポートスタッフ」を公募し、4月8日(土)に委嘱式を行いました。



フォレストサポートスタッフ委嘱式

フォレストサポートスタッフ委嘱制度は、森林管理局署等において森林教室や体験林業等の実施にあたり、実施業務に係る協力者として関東森林管理局長がイベントスタッフを委嘱し、森林環境教育等の一層の充実を図る制度です。当センターではこの制度に基づき平成26年度から委嘱を行っています。当日は、今年度の委嘱を決定した39名のうち、出席頂いた30名の皆様に当センター所長より委嘱証を交付しました。



フォレストサポートスタッフの活動

フォレストサポートスタッフは、ボランティアにもかかわらず、当センターが開催する各種イベントや森林教室等に毎回ご協力を頂いています。昨年度は延べ160名を超えるご協力を頂くなど、当センターにとって欠くことのできない存在です。

【依頼イベント・森林教室】

毎年度、トップを切って訪れる東京都中央区立佃島小学校5年生の児童134名が、4月20日に森林教室、森林ふれあい館等を訪れ、森林や林業についての講義や丸太切り、森林観察などを体験しました。天候にも恵まれ、児童からは「将来、林野庁の仕事をやりたい」と真剣に訴える少年が現れるなど、幸先良い今年度のスタートとなりました。

当センターでは、年間20数校の森林教室を実施しています。例年、梅雨時期のためか依頼が少ない6月中の依頼が、今年度は、新規の学校3校を含む4校からあり、うち1校からは日曜日開催の依頼がありました。

当センターでは、今後も教育機関からの依頼は休日等を含め極力受け



森林教室

入れることとし、多くの子供たちに森林や林業に興味を持ってもらうよう取り組んで参りたいと考えています。

【協定イベント】

当センターでは、関東森林管理局長と森林ボランティア団体が協定を締結して森林ふれあい推進事業を行う協定イベントを実施しています。今年度は、昨年度に引き続き森林インストラクター東京会、森とでんえん倶楽部、DAIGOエコロジー村、高尾パークボランティア会、森と人のネットワークの5団体と協定を締結しました。今年度も各団体が創意工夫したイベントを計画し、5団体で年間41回の開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。



協定イベント

きのこ特集〜春と夏に発生する「きのこ」〜

総務企画部 総務課

春に発生するきのこについて

皆さんはキノコと聞くと秋をイメージされるとと思いますが、意外にもキノコは、温度と湿度があれば季節に関係なく発生します。

私たちが目にするキノコは、普段は、菌糸で生活している菌が、種子にあたる胞子を作るため、キノコの一生の中で短期間だけ見ることのできる子実体と呼ばれる形になったものです。

ここで、春に良く発生(子実体)が確認されるキノコを紹介します。

ハルシメジ(食用) (イッポンシメジ科、イッポンシメジ属)



春四月から五月にバラ科の植物の樹下に発生する。カサは径5〜15cmで灰色から灰黒色で表面は微毛で覆われる。ヒダは初め白色、後に肉色になり、柄に直生する。柄は白色で根元がやや細まっています。

シヨウロ (食用) (シヨウロ科、シヨウロ属)



春四月から五月にかけて、海岸のクロマツ林に発生しますが、地下性菌であるため、ほとんど見ることができません。強風で砂が飛んだりす

ると姿を見ることがあります。菌根菌なので、毎年同じ場所に発生することから、発生場所を知っている人たちは、熊手などで、砂をどかして探します。
子実体は不規則な球状で径2〜7cmほどで、初め白色ですが空気に触れると淡黄色になり、傷付いたところは、赤色に変色します。

挿絵の掲載について

茨城署 藤戸茜さんのご協力をいただき、今後本誌面に作品を掲載して参ります。



アカネズミ(赤鼠)

体長8〜14cm。ドングリを埋めて貯える。たまに食べ忘れて発芽させてしまう。

今月の表紙

「奥日光の6月」

奥日光国有林は、日光国立公園内に位置し、その一部は「奥日光の湿原」としてラムサール条約湿地に登録されています。様々な湿原性植物により、独特の景観を織りなしています

6月になると、千手ヶ浜ではクリンソウが群生し、小田代原や戦場ヶ原ではワタスゲやズミなどが見頃を迎えます。

日光森林管理署は、戦場ヶ原湿原を「植物群落保護林」に指定し、自然環境の保全を第一とした管理を行っています。

(撮影者…日光森林事務所非常勤職員 大野恵一郎)



夏に発生するきのこについて

夏に良く発生（子実体）が確認されるキノコを紹介します。

夏に発生する食用きのこは、タモギタケ、タマゴタケ、ヤマドリタケモドキ、トンビマイタケ等があります。

タモギタケ（食用）（ヒラタケ科ヒラタケ属）



夏七月上旬から八月上旬にかけて、広葉樹の倒木等（特にハルニレ）に発生します。

カサは2〜5cmで鮮やかな黄色でロート型、ヒダは白色で垂生します。柄は5cmほどで、白色です。

タマゴタケ（食用）（テングタケ科 テングタケ属）



夏七月上旬から八月下旬にかけて、広葉樹（ブナ林）林内地上に散生から群生します。

カサは7〜20cmで鮮やかな赤色をして状線があります。ヒダは黄色から橙色で離生します。柄は10〜20cmで黄色の地に橙色のダンダラ模様があり、下部には白色、袋状のツボ（外皮幕）のなごりがあり、上部には橙色のツバ（内皮膜）があります。

毒キノコのベニテングタケに類似しています。

日本で発生が確認されているものは、以前はアマニタ・ヘミイバツパでロシアに発生するものと一致し、アマイタ・カエザレア、フランスに発生するものとは別種とされていますが、近年DNA鑑定の結果アマ

ニタ・ヘミイバツパとも別種であると発表され、日本に発生するものは、別種として昨年新しくアマニタ・カエザレアと学名が付けられ国内及び海外に発表されました。

ヤマドリタケモドキ（イグチ科イグチ属）



夏七月上旬から九月上旬にかけて、広葉樹林（コナラ・ミズナラ等）の樹下に単生します。カサは黄土褐色から黄土色でまんじゅう形で7〜15cmです。管孔は初め白色後に黄色最終的には黄土色になり、直生します。柄は根元が太まり棍棒上で10〜15cmで茶色の地に白色の深い網目模様があります。フランスではポルチイニと呼ばれる種です。

トンビマイタケ（若い時のみ食用）（サルンコシカケ科 トンビマイタケ属）



夏八月中旬から八月下旬にブナの立ち枯れ木や切株から発生します。カサは初め淡褐色から褐色で外側のフチは不規則に湾曲して、表面は木の年輪のような模様があります。肉は白色で手で触れたりすると黒くなり、幼菌の時は柔らかい成長すると固くなります。



ガビチョウ(画眉鳥) 約24cm。中国からの外来種。大きく美しい声でさえずる。

森づくり最前線

埼玉森林管理事務所大滝森林事務所 森林官 柴崎一道

私が勤務する大滝森林事務所は、埼玉県西部の秩父市大滝に位置し、東京・群馬・山梨・長野の1都3県に境を接する約9,800haの国有林を管理しています。

ほぼ全域が秩父多摩甲斐国立公園に指定され、そのうちの約7割は、原生的な天然林が占めており、貴重な野生動植物が生息・生育し多様な森林生態系を維持するため、秩父山地緑の回廊に指定されています。また、首都圏の水源である荒川の源流部にあり、水源かん養や国土保全などの重要な役割も果たしています。



奥秩父原生林

管内には日本百名山に数えられる雲取山や甲武信ヶ岳があり、年間多くの登山者が訪れており、私も森林官業務の一環として、山荘敷として貸付けをしている国有地の巡視や境界管理のため、山荘泊まりで登っています。登山道を歩く際は、森林パ

トロールも兼ねて、危険な箇所がないか、樹木等が損傷していないか、ゴミが投棄されていないかなどをチェックしながら歩いています。奥秩父の大自然のなかで、森林に携わる仕事ができることに感謝しつつ、山でお願いする方々との交流も大切にしながら業務に励んでいます。



雲取山巡視

さて近年、全国的に野生動物による農林業被害が叫ばれています。当管内でもニホンジカやクマなどによる樹木の皮剥ぎ被害が深刻化しています。

こうした野生動物による皮剥ぎ被害から樹木を保護するため、平成20年から埼玉森林管理事務所と地元NPO法人との共催により、山梨県との境に位置する笠取山(標高1,953m)周辺で、多くのボランティアの方々のご協力をいただきながら、樹木保護ネット設置活動を毎年続け

ています。



樹木保護ネット設置作業

笠取山周辺での作業は、秩父市内からバスで片道3時間、そこから2時間かけて山を登って、ようやく現地に到着するという大変な行程ではありますが、これまでに延べ227名もの方々にご参加いただき、1,701本に樹木保護ネットを設置しました。最近では、埼玉県特定鳥獣保護管理計画によるニホンジカの個体数管理事業も本格的に始まっていますが、まだまだ生息密度を抑制するまでには至っておらず、引き続き保護と個体数管理の両面で森林の保全を図っていく必要があると考えています。

秩父市といえば、羊山公園の芝桜や武甲山、昨年ユネスコ無形文化遺産に登録された秩父夜祭りなどが有名ですが、奥秩父地域の山間部には最近メディア等でよく紹介されてい

る三峯神社という有名なパワースポットがあります。是非、奥秩父地域にも足を運んでいただき、三峯神社にてパワーを受けたのちに、奥秩父の大自然の中で癒やされてみてはいかがでしょうか。



三峯神社



樹木保護ネット設置作業後

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 230-1393